**今後の方針について**

2012年5月16日

生物部部長 鈴木康嵩

今回の水漏れ事故の被害が一定の収束を見たため、生物部が考える事故の背景と対策についてご報告申し上げます。

1. **事故の遠因について**

生物部は、10年前にも同様の事故を起こしています。しかし、その教訓が生かされなかったために今回のような事態となってしまいました。その原因は以下の5つと考えました。

* 1. 部員全体で、問題意識を共有できていなかった。

10年前の事故の存在を一部の上級生しか知らず、上級生も特に下級生に伝えようとしなかった。

* 1. 部員1人1人が責任感を持っていなかった。

部員1人1人に責任があると自覚を持っていなかったために、部室を施錠する際などの確認をおこなっていなかった。

* 1. 事故の重大性を甘く見ていた。

10年前の事故の被害が重大なものだと知りながら、防止策をかんがえていなかった。

* 1. 問題への対応を能動的におこなっていなかった。

今回の事故以外の様々な問題への対応も顧問の先生方が主体となって行われ、部員の自発的で能動的な対応はされていなかった。

* 1. 他者に責任転嫁をしていた。

①～④の問題点を認識しながらも、代々受け継がれてきたものとして改めようとしていなかった。

1. **問題点への対応について**

上の①～⑤への問題を改善し、再びこのような事故を起こさないための方策として以下のようなものを考えています。

* 1. 全ての部員が集まり、情報を共有する場を設ける。

活動の状況や問題点などを互いに報告し情報を共有する定例会を設ける。定例会の議事録は出席できなかった部員が読むほか、次代への引継ぎ資料とする。定例会は継続的に行うために、曜日を定めて月2回開く。

* 1. 責任の所在を明確にする。

活動の際は部長をはじめとする最高学年が責任をもって監督する。最高学年は下級生の行動に責任を持つが、下級生もそのことを十分に理解して細心の注意を払って行動する。

* 1. 引き継ぎを確実に行う。

現最高学年が引退した後も事故の教訓を引き継いでいくために、　次代の部長だけでなく部員全員に引継ぎ資料を配布する。この際、1年間の活動で起きた全ての問題と対応を記録し引き継ぐことで、同じような問題を起こさないようにする。また、上記の定例会の議事録も引き継ぐ。

* 1. 顧問の監視なしでも自律的な活動を行う。

顧問の監視が行き届かなくても自律的に活動できる体制を整えることで、問題が起きにくくなると考える。また、活動が合理的なものになると考える。以下に具体策を示す。

* + 1. 部長が全体の活動を把握し、適切な監督を行う。

部長は部全体での活動の実態を把握し、事故の危険を早期に発見し未然に防ぐように努める。

* + 1. 文化祭や生物研究の集いに向けての活動目標を立てる。

活動目標を明確にすることで、事故の原因となる漫然とした活動をなくす。

* + 1. それぞれの活動ごとに班を作り、責任者と班員を明確にする。

活動ごとに分かれることで責任の所在が明確になるため、事故を防止することができる。班の活動は定例会で報告し、部員全体で共有する。

1. **最後に**

生物部は今回の事故の重大性を踏まえ、反省をしたうえで今後の活動における事故の対策を取りまとめました。今後の活動をお許しいただけますよう、寛大な御処置をお願いいたします。